



川口市立在家中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/zaike-j/>



- ・心身ともにたくましい生徒
- ・自ら進んで学ぶ生徒
- ・豊かな情操を培う生徒

災害を正しく恐れる

校長 鈴木 玲

先月は5日に石川県で起きた震度6強の地震を皮切りに、青森、千葉、北海道、鹿児島と震度4以上の地震が相次いで発生しました。地震が頻発したこの時期にはテレビや新聞で連日報道され、専門家たちは日本列島周辺が地震の活動期にあると述べてつつも、それぞれの地震に関連性はないであろうという見解も示していました。関連性をもたない根拠として、震源とするプレート（岩盤）の違いがあります。日本の周辺には太平洋プレート、北米プレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレートという4つのプレートが存在し、テレビ番組内で解説に用いたその図を見ると日本が地震の危険に囲まれていることを改めて思い知らされます。そして、恐ろしいことに、どの解説者も今後30年以内に70～80%の確率で大地震が起きると話しています。ちなみに、大正12年には神奈川県の相模湾北西部を震源とした関東大震災が発生しました。西暦でいえば1923年、つまり今からちょうど100年前のことです。

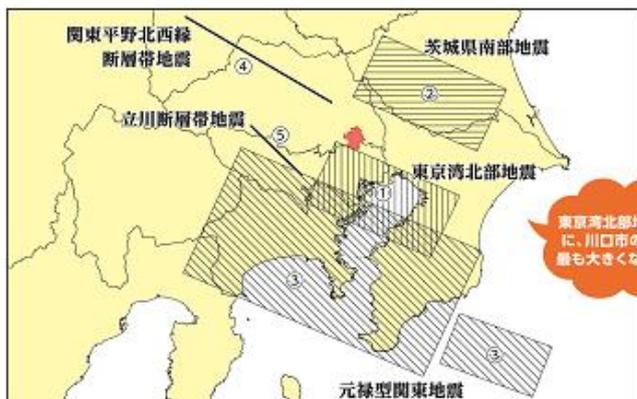
地震に限らず、台風などで芝川が氾濫した場合、本校は決して安全な場所とは言えません。過剰に恐れる必要はありませんが、現実問題として起こり得る危険は想定しておく必要があります。東日本大震災では多くの帰宅困難者も生まれました。電話やメールでの連絡が絶たれ、情報が入りづらい状況下で保護者が帰宅できず、家に小中学生が一人で孤立する可能性すらあります。校内や学校周辺において、生徒や教職員はもちろん保護者や地域の方々が、万が一の時にその場でどのような判断を下し、どのような行動をとるべきか、しっかりと考えておかなければなりません。自分で自分の命を守る「自助」とともに、中学生ともなれば周りの人たちのことを気遣い、協力し合う場で発揮する「共助」の力も求められます。

5月の中間試験後には全校で校内の避難経路の確認をしました。来月、**7月3日(月)には在家小学校と連携して災害時の引き取り訓練**を行います。今こそ、災害時の備えについて再確認し、落ち着いて正しい行動がとれるように整えておきましょう。災害は**正しく恐れ、正しく行動できる**ことが大切なのです。

川口市で想定されている地震

埼玉県は、県内で大きな被害が予想される5つの地震について、被害予測調査を行っています(平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査)。このうち、東京湾北部地震や茨城県南部地震などのマグニチュード7クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は70%程度とされています。

地震	マグニチュード
① 東京湾北部地震	7.3
② 茨城県南部地震	7.3
③ 元禄型関東地震	8.2
④ 関東平野北西縁断層帯地震	8.1
⑤ 立川断層帯地震	7.4



東京湾北部地震の際に、川口市の被害が最も大きくなります。

想定される地震の断層位置

川口市防災ハンドブック「防災本」より抜粋



川口市防災ハンドブック「防災本」は、川口市役所本庁舎、各支所、川口駅前行政センター、公民館、危機管理課（第一本庁舎5階）、消防局、南・北消防署にて配布しているほか、川口市のホームページからもご覧いただけます。